

第3号  
平成30年7月20日  
国語科1年担当  
奥池・日高・狹間



夏の午後口に運べる氷より  
心地よき銀の匙のつめたさ

## 新企画(?)、始めました。



「論理の虎」も第九回を迎え、「論理的に読む」とはどういうことか、少しずつ理解を深めてくれているようです。

そこで六月から新企画「百字の獅子」が始まりました。今度は「読解」ではなく、「表現」です。

決められたお題に沿って、百字で自由に文章を作ります。第一回の六月二十八日は「雨」「紫」「結婚」の三つのお題でした。

皆さんのあまりの熱心さに、教科担一同、本当に驚きました。上手・下手は置いて、書くということに対する皆さんのその意気込みは立派なものです。今後、不定期（おおよそ一ヶ月に一回）に実施しますので、その時はまた一生懸命取り組みましょう。

今回は、その「百字の獅子」からいくつかご紹介します。



何かものを言いたげな獅子だと思いませんか？

### 「紫」の效果

私は、たくさんある色の中で、紫は、二番目に好きである。一口に「紫色」といっても濃い紫や薄い紫など、驚くほどたくさんある。しかし、どの「紫色」も、落ちつきを保持した色で、リラックスできる効果があると思う。

◆青と赤の割合や濃淡の度合いによって、いろいろな表情を見せてくれる紫色。確かにどの紫色もリラックス効果は絶大ですよ。

### 「紫」

「実家に咲く無数の紫陽花」 二組 H君

私の実家の前にある土手には、毎年色とりどりの紫陽花が土手いっぱい咲く。先日、実家に帰ると、無数の蕾を付けていた。その様々な色がある中でも、梅雨で暗い雰囲気のある六月に一番合うのは、やはり、紫である。

◆土手いっぱい無数の蕾。そして、雨に濡れた紫の紫陽花がいっばいに咲く様子が生き生きと想像できる文章ですね。

### 「雨」

「テルテルぼうず」 一組 Oさん

私は、雨が降ってくると幼稚園だったころを思い出します。あの時、たくさん作ったテルテルぼうずに顔をかいて、窓に貼りつけるのは梅雨の時期の一大イベントのように思えます。今年も時間があつたら、作ってみたいものだ。

◆雨音や雨のおいまで漂ってきそう。晴れを願う気持ちと、テルテルぼうずを作る楽しさを思い出しました。

### 「雨」の力

二組 Mさん

私は雨を見ると、悪い心がきれいに洗い流されるような気がする。雨は、天と地を行き来しながら、何を見て、何を思っているのだろうか。ただ天から降り注いでいるだけで人の心を動かしている、そんな雨が私は好きだ。

◆本心に、雨は私たちの心を左右しますね。「ただうだけ」という表現が効いています。

### 「もがいてあがいて工夫する」

奥池 大和

中一のみなさん。こんにちは。早いもので、中学校生活もう四ヶ月が過ぎようとしています。中学校生活は十二月月×三年で、三十六ヶ月。三十六割る四で、九。何の計算かわかりますか？ みなさんの中学校生活は、すでに九分の一が終わったのです。「またまたたくさん残っています」と感じますか？ 「もうそれだけ終わってしまったのか」と感じますか？

私は、この時の流れというものとても速いものだと感じます。私もつい数年前までは中学生だったようなな？？まあ、半分冗談ですが。「光陰矢の如し」という言葉もあるように、この時間の急流になすがまま流されてよいのか。私がこの急流の中でなんとかがまぐことができる人間になりたいし、皆さんにもなってほしいと思います。日々、授業や宿題、部活…。やることは山積みでしょう。それはわかります。ですが、それを言い訳にして、ただ与えられたことをやるだけでよいのか。それで自分の人生は充実したことになるのか。ここでさきほどの「もがく」ことが重要になってくるのではないのでしょうか。忙しい中で、何とか工夫して自分のやりたいことをする時間をつくっていく。どうにかしてやるべきことを効率よく終わらせる。それができる人間は、きっとこの先活躍できます。失敗したっていいんです。行動の後には必ず、経験という宝物が残ります。ようやく慣れてきたところだという人もいるでしょう。こちらで一つ、ステップアップしてみませんか？